

最後のお手紙

このいまごぜんのはのは、たのむかたもなく、そろそろをもちて候わばこそ、ゆずりもし候わめ。せんしに候いなば、くにの人々、いとおうせさせたまうべく候う。このふみをかくひちちの人々をたのみまいらせて候えば、申しおきて、あわれみあわせたまうべく候う。このふみをこらんあるべく候う。このそくしうぼうも、すぐべきようもなきものにて候えば、申しおくべきようも候わず、みのかかわず、わびしう候うことは、ただこのこと、おなじことにて候う。ときにこのそくしうぼうにも申しおかず候う。ひちちの人々ばかりぞ、このものどもをも御あわれみあわれ候うべからん。いとおうしう、人々あわれみおぼしめすべし。このふみにて、人々おなじ御ころに候うべし。あなかしこ、あなかしこ。

十一月十二日 ぜんしん（花押）
ひちちの人々の御中へ

（聖典 六一三〜四頁）
聖人みずから「ぜんしん（善信）」と署名して、花押（書き判）を記したお手紙で、原本は西本願寺に伝わっています。日付は弘長二年（一二六二）の十一月十二日と考えられます。聖人は同年十一月二十八日に九十歳で命終されますから、それより十六日前に書かれた最後のお手紙ということになります。

宛先は常陸の人々、つまり常陸国（茨城県）に住む聖人の弟子につらなる人々です。料紙は縦二九・八センチ、横九一・八センチで、二枚の紙が横に貼りついてあります。全体に薄墨がかつていて、二十四行からなる本文全体に筆の乱れがうかがえます。

聖人の終焉

『御伝鈔』親鸞聖人伝絵によると、聖人のご臨終は次のようでした。聖人は弘長二歳仲冬の十一月下旬頃から、すこしお加減がわるくなされました。それから世間のことなど口にせず、ただ仏恩の深いことばかりを述べら

れ、絶え間なく念仏をとえられておりました。そして同月二十八日正午に頭を北に顔を西に向けてお休みになったまま、お念仏の息が途絶えました。

場所は善法坊といい、洛中の押小路の南方里小路の東で、聖人の弟尋有法師の住居でした。現在の京都市中京区御池通り柳馬場東入ル、柳池中学校の構内にあたります。

この聖人最後のお手紙は十一月十二日付、つまり仲冬中旬のことですから、お加減がわるくなられる直前に書かれたものです。

善信のたのみ

お手紙の内容は常陸国の門徒へお入り入つての頼みごとです。現代語で読



大谷大学名誉教授 名 焯 崇

みかえると次のようになりましょう。

この今御前の母（聖人の末娘覚信尼）は頼りにするところもなく、私に所領でもあれば譲りもしましようが、それもかたないません。わたくし善信が死にましたなら、国の皆さんは可哀相だと思つてやつてください。この手紙を宛てて書く常陸の人々を頼りに致しておりますから、皆で哀れんでやつて下さい。この手紙をお読みください。この即生房も生計をたてる術もない者なので、言い残すこともないようなものです。この身の思いのままにならず、わびしいのは、ただこのことだけで、いつもと同じです。ときには即生房に何も言い遺していません。常陸国の

人々だけこそ、この二人の者どもを哀れみ、憐れんで下さることでしょう。いとしいと思い、哀れんでやつて下さい。皆さん、この手紙をお読みになつて、同情してやつて下さい。

自分の死が近いことを知った聖人が、身寄りのない娘覚信尼と即生房の扶養を、常陸の門徒に懇願しておられるのです。いわば世事にわたること、これまで読んできたお手紙とは内容も趣きも違います。

聖人には定まった住居も所領もありませんでした。法然上人の弟子であつた関東の御家人には所領を持ち、持仏堂や念仏所を建てる者もいました。聖人の門弟にも何ほどの所領を持つ者もいたようです。聖人が望めばかなわぬこともなかったでしょう。しかし聖人はあえて持とうとしなかつたのです。それが聖人の仏道でした。聖人はいわば無産者で生き通したのです。

常陸国のひとびと

お手紙のなかで「ひちちの人々」と、くりかえし呼びかけておられます。常陸での聖人の滞在が長かつたこともありすが、覚信尼や即生房はとくに常陸の人びとに親しまれたようです。このとき覚信尼は三十九歳で寡婦になっていましたが、生年は元仁元年（一二二四）で、聖人と恵信尼との間で生れたのは、常陸国笠間郷の稲田とも考えられます。聖人五十二歳、恵信尼四十三歳のときです。

そのころ聖人は「愚禿釈親鸞」の名のもとに『教行信証』の執筆を進めておられました。浄土真実の教・行・証が明らかにになり、おのずから教化が広がります。常陸の主だった弟子だけでも入西・順信・慶西・善性・唯円・頼重など、二十人近くの名が残っています。覚信尼や即生房は幼い時から、これら聖人を敬い慕う人々に見守られ、親しみ可愛がられて育つたようです。

婦人聞法会

◆期日 二月二十日（金）
◆時間 午後一時から
◆会場 高山別院御坊会館
◆講師 護 西賢氏
（大垣教区慶圓寺）

聖教学習会

◆期日 ①二月二十三日 月
②三月 六日 金
③三月二十四日（火）

◆時間 午後一時半から
◆会場 高山教務所和室
◆講師 三木彰円氏
（大谷大学専任講師）
◆内容 「教行信証総序に学ぶ」

嘉念坊善俊上人法要並びに顕彰会総会

飛驒における真宗の祖、嘉念坊善俊上人の祥月命日にあたる三月三日、高山別院本堂において法要と総会を行います。

総会後、講演会を行いますので、会員以外の方もご聴講ください。（無料）
◆期日 三月三日（火）
◆会場 高山別院本堂
◆時間 午後一時半から
◆講師 長瀬公昭氏
（ヒッツFM パーソナリティー）

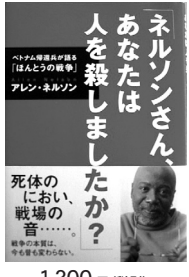
蓮如忌法要

◆講題 「浄土真宗と飛驒」
◆期日 三月二十五日（水）
◆時間 午後一時から
◆会場 高山別院本堂
◆講師 西山郷史氏
（能登教区西勝寺）

如是我聞

『ネルソンさん、あなたは人を殺しましたか？』

アレン・ネルソン 著



1,300円（税別）

住職の言葉

マムシと乳牛

― 雑行と本願 ―
高山二組還来寺住職 帰雲 真智

お寺の修復をして頂いた。門信徒の御懇念の深さを感じ、記念法要では思わず目頭が熱くなる。が、その感動も、雪とともに埋もれ、寒さとともに凍てついた……

①本堂屋根銅板葺き替え

雪止めがなく、屋根に積もった雪がすぐ落ちるので、屋根に負担がかからず良好に降雪のたびに入口を除雪する必要が↓（身体的負担）

↓【厄介】

②トイレ新築

暖房が入って凍結の心配もなく、ウォッシュレット付の洋式便座で、非常に快適

↓十二月の電気料が前年比の倍以上に↓（経済的負担）

↓【迷惑】

本願力にであい、雑行をしられ、慙愧を賜るとき、ドク（毒）が転ぜられトク（徳）となり、マムシは脱皮してヒトとなる。

公開講座 現代と真宗 テーマ「死刑」



お話：森 達也さん

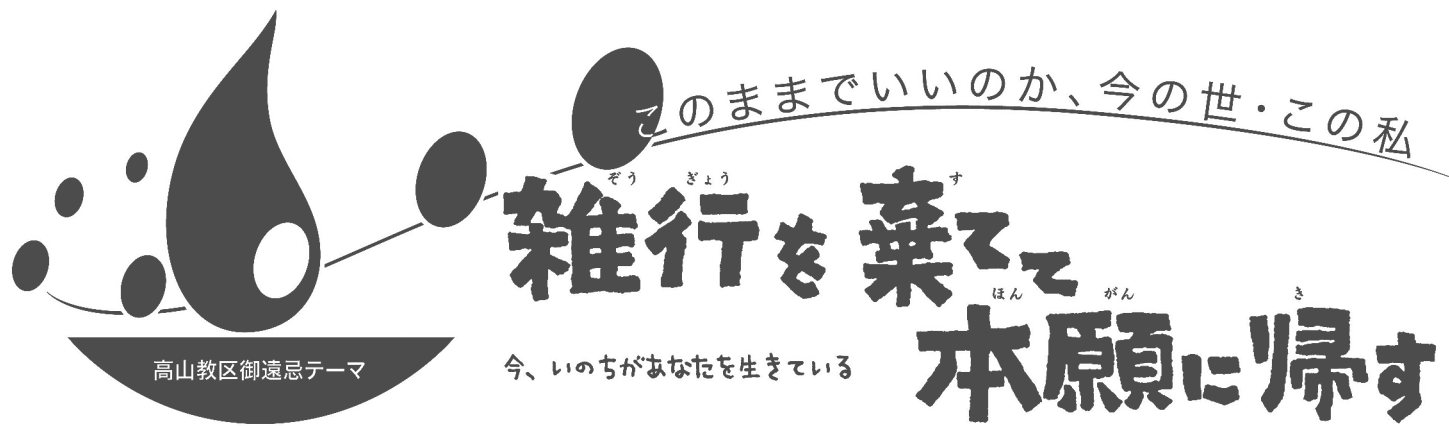
（略歴）
1956年広島県生まれ。ディレクターとして、ドキュメンタリー作品を多く制作。1998年、オウム真理教の荒木浩を主人公とするドキュメンタリー映画『A』を発表。各国映画祭で高い評価を受ける。2001年、続編の『A2』で山形国際ドキュメンタリー映画祭市民賞・審査員特別賞を受賞。

期日 2009年4月28日（火）
時間 午後6時30分から
会場 高山別院 本堂 参加無料

主催：高山教区社会教化小委員会

☎テレホン法話へ0577(34)2313 ☎二月二十一日〜二十八日・四衢亮氏 ☎三月一日〜十日・旭野康裕氏 ☎三月十一日〜二十日・前田雅敏氏

高山教区御遠忌テーマのロゴマークが決定しました！



宗祖親鸞聖人 750 回御遠忌が 2 年先に近づいてきた今、高山教区御遠忌テーマのロゴマーク（上図）が決まりました。

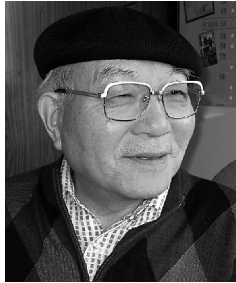
このロゴマークは、昨年発表された教区御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている 雑行を棄てて本願に帰す—このままでいいのか、今の世・この私—」を広く皆様にお知らせし、親しんで頂くために製作されました。それはこのテーマに込められた願いを視覚的にも感じて頂くためでもあります。

このロゴマークは、高山 1 組暎芳寺ご門徒の藤木郷伝画伯 (74 才) に考案いただいたマークを、益田組永養寺ご門徒の熊崎達彦デザイナー (45 才) にアレンジしていただきました。教区のご門徒に主体となって頂き、日本画家とグラフィックデザイナーの融合というかたちで完成に至りました。

このことは、宗祖の御遠忌は決して宗派や教区の行事ということではなく、本願念仏を相続してきた長い長い歴史の中で、このご縁に遇い得た私たち一人ひとりが主体となって、みんなで積極的に関わってお迎えしようという思いの結実でありましょう。

マークは大きく 2 つの形から構成されています。中央にお内仏の輪灯の油皿と炎をかたち取った「灯明」と、その回りを取り囲む小さなものから大きくなっていくいくつかの楕円形の「人の顔」からできています。

「灯明」は、いつの時代にあっても常に人々を照らし続ける法灯、「如来の本願」です。灯明を取り囲む顔を象徴した 7 つの楕円は、本願に促されて、法灯に集う私たちの歴史を表しています。小さな楕円は過去の人々の顔を、灯火を通り過ぎて大きくなっていく楕円は未来の



藤木郷伝 氏



熊崎達彦 氏

人々の顔を暗示しています。その顔は、無始より繰り返されてきた人の生のつながりであり、終わりになく続いていくいのちの系譜と言えるものです。それは休止することのない如来の本願の歴史であり、本願に促されて集ってきた人々の聞法生活の歴史と言えるでしょう。そしてその連続する流れの途中にあり、灯火の中で反転した楕円は、教えに照らされている今現在の私の顔なのかもしれません。

本願の歴史の渦の中に宗祖親鸞聖人も生きられました。そして私たちに先だってその歴史を歩まれた先達がおられます。その渦から「雑行を棄てて本願に帰す」と、宗祖の言葉が重く感動的に響いてきます。そしてその言葉は、「このままでいいのか」という厳しくもあたたかい問いとして、「今の世」を生きる「この私」にはたらきかけています。

デザインとして形となったロゴマークに親しみながら、そこに流れる願いとともに、2 年後の本山での宗祖の御遠忌を迎え、そして「ご坊さま」での宗祖の御遠忌に出遇っていきましょう。

別院彼岸会・永代経法要

3 月 17 日～ 23 日 午後 1 時から

17 日 (火) 大町 慶華 高山別院輪番

18 日 (水) 高島 外成氏 (常德寺住職)

19 日 (木) 四衢 亮氏 (不遠寺住職)

20 日 (金) 三島 多聞氏 (真蓮寺住職)

21 日 (土) 森 三智丸氏 (秋聲寺住職)

22 日 (日) 中飯田正夫氏 (寶蓮寺住職)

23 日 (月) 三本 昌之氏 (蓮徳寺住職)



先日ニュー
スを見ている
と、そこには
一匹の犬と、
その犬を愛し
そうに抱く中
高年の女性、
そしてその
周りをたくさ
んの報道陣が
取り囲んでいた。
何かと注視
していると、
その犬はクロ
ーニング犬だ
った。飼って
いた犬の DNA
を生前中に採
取し、冷凍保
存していたと
いう。愛犬の
死に際し、そ
の DNA を持
つ犬を人工的
に作り出した
というわけだ。
費用は千四百
万円。飼い主
は喜びに満ち
た顔をしていた
が、果たして
そこに「いのち
の尊厳」はある
のだろうか。

「クローン」は、
年の離れた
一卵性双生子」
という説も

聞いた事があるが、同じ遺伝子を持ち、同じ顔をしているとも、「いのち」はそれぞれに、ただ「一つ」のはずである。そこを見失ってしまうと、「代わりはいくらでもある」という概念に陥りかねない。そこには「いのちの尊厳」など欠片もない。生あれば死あり。儚くも、生あれば必ず死は訪れる。死をもって初めて「いのちを生きた」といい得るのではないだろうか。

我々は代わりのきくようなリセットしてやり直しのきくようないのちを生きているのではない。愛するものの死を無かつた事にするのではなく、素直に受け止め、その死から自らのいのちを問う。そういう「いのち」を生きていくべきではないだろうか。 (法)

宗教トラブル・FAX相談窓口

高山教区では、宗教トラブルに関する「FAX相談窓口」を設けております。「宗教教団への入会、研修会への参加の勧誘を受け困っている」等の具体的な相談・問い合わせ内容と、相談者の連絡先(氏名・住所・電話番号・FAX番号)を明記して、下記 FAX 番号へ送信ください。電話での受付はいたしません。

FAX 番号 0577-32-0763

お待ち受け総上山「御影堂内部見学」

御影堂御修復現場視察が 2008 年 12 月で終了し、これに伴い、本年 1 月からのお待ち受け総上山では新たに御影堂内部の見学が実施されています。

御影堂内部の見学では、修復された大虹梁や、修復課程をパネルにした展示、そして、美掃を終えた御厨子や内陣の障壁画等を見学できます。

なお、実施期間は、2009 年 8 月末日まで (予定) となっております。